

賛成派

発言者名

反対派

賛成派主張の論旨

- 年約「鯨の繁殖」^{年々増え}ミンクジラ^{ミンクジラ} IWC^{IWC} 捕鯨は日本の文化、自給率40% 輸入に頼る 自国タバコ等の確保
- ミンクジラ 食料は鯨の資源である。百年は可能 3万頭以内に抑えればよい。2000頭でよい。
- 4年3%の減少である。ほかの魚が減少
- 健康only 10%に減らす
- 人間に比べる鯨のほうが少ない→漁獲量の制限
- 30年捕鯨の目的は成長一鯨が生態系に力す

④元 調査の成果とは？一生態系やその他の魚の資源が得られる。海洋生物のバランス。

賛成派反論の論旨

- 池田 73年向の増量は多い。年約で加工は販売 増えはいいから
- 石井 ミンクジラを減らすとほかの魚が増えてしまうから。(3~5%)
- 大井 水銀 南極は人為的に汚染されている。70ミンクジラ 地球の1/10 捕鯨は必要
- 井上 IWCに許可されている。
- 大井 70ミンクジラの減少は捕鯨に理由ではない。

池田 水銀のデータ ARPA 厚生労働省
水銀以外の重金属では安全か？その把握は？

賛成派再反論の論旨

- 井上 税金が世界には特殊な方法でとるほうがお金がかかる。
- 池田 レポートはよく読んでいる
- 石井 増えたといえない調査もある。
- 大井 しんじは一面的な意見
- 井上 日本は調査はいいところではある。10頭以下
- 大井 2006年の結果は示されていない。
- 井上 20年以内も分かっている

賛成派総括

- 井上 法律で決められているから捕鯨率10%に
- 池田 年約にはOKの量である。
- 石井 文化の違い 異文化を理解する

必ず確認

反対派主張の論旨

- D11(輸入E小原 73年向の増量は 在庫量の増えは必要 日本人の食の安全ではない。消費量は20%に抑える(調査による) 絶滅のまじのミンクジラ 742722
- 石井 2000→350頭(ミンクジラ)
- 大井 税金 60億円の予算 30億の税金をもらって捕鯨
- 井上 水銀 鯨の生態系から10% 7~10%の増え 増え量で上回っている

④元 絶滅のリスク？一IWC年間の各国の報告は調査はいい方法？

反対派反論の論旨

- 小野 漁獲量の減少 捕鯨一非捕鯨では説明できない
- 池田 他魚の資源も減る 3~5%の増えは必要
- 大井 調査は必要 調査は必要 調査は必要
- 井上 厚生労働省は日本側からほめる →アメリカでは10%の増え
- 大井 自給率の低下 - 筋肉 - 20%の自給率はあからずかしい。
- 井上 日本政府の73年の増えは調査 較さなくても調査できる。=グリーンピース

大井 73年向の増えは調査は必要

反対派再反論の論旨

日本は悪い部分で悪い。日本側はよくせよ。子にもらう。

反対派総括

- 調査はあつた ← 国政府の調査からわかる。国民にわたるべき
- 井上 日本人が調査を拒否する。せうめい ほかの魚にも調査は必要

判定 → ジャッジはどちらの論旨に納得したか次の評価欄に○を記入。その理由をその場で講評してください。